

令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団体名	富士山河口湖音楽祭実行委員会	
施設名	河口湖ステラシアター	
助成対象活動名	人材養成事業	
内定額(総額)	3,625	(千円)
公演事業	0	(千円)
人材養成事業	3,625	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	富士山河口湖音楽祭2021～音楽祭開催20年記念～上野耕平等演奏家による音楽アカデミープログラム	8月13日(金)13:00～ 8月14日(土)19:00～	上野耕平(サクソフォン) 葉袋貴(指揮) 山梨県中学生特別バンド	目標値	466人 ※一般聴講者、出演受講者含む
		河口湖ステラシアター		実績値	135人
2	富士山河口湖音楽祭2021～音楽祭開催20年記念～中学生吹奏楽特別バンド、OB特別バンド、音楽活性化育成プロジェクト	【中学生バンド】 7月24日(土) 8月9日(月祝) 8月13日(金) 8月14日(土)本番 【OBバンド】 8月13日(金) 8月14日(土)本番 夜：合奏クリニック (上野耕平指導)	上野耕平(サクソフォン) 葉袋貴(指揮) 山梨県中学生特別バンド ステラ吹奏楽団	目標値	150人
		河口湖ステラシアター 勝山さくやホール		実績値	151人
3	富士山河口湖音楽祭2021～音楽祭開催20年記念～文化ボランティアの活性化と若年層ボランティアの育成プロジェクト	8月11日(水)～ 8月23日(月) 13日間	音楽大学アートマネジメント専攻 学生滞在育成プログラム	目標値	8人予定 (19日間、延べ54人分)
		河口湖ステラシアター		実績値	2人 (13日間)
4	富士山河口湖音楽祭2021～音楽祭開催20年記念～打楽器奏者池上英樹による音楽祭特別編成・若手演奏家育成アカデミープログラム	8月17日(水)～ 8月21日(日) 4泊5日強化合宿	池上英樹(打楽器・マリンバ他) 塚越慎子(打楽器・マリンバ他) 全国公募マスタークラス受講者5名	目標値	受講者20人
		河口湖ステラシアター 河口湖円形ホール		実績値	5名
5	富士山河口湖音楽祭2021～音楽祭開催20年記念～マエストロ佐渡裕と共に創る公募型合唱育成プロジェクト～更なる高みへ～	7月31日(土)～ 8月14日(土)	音楽祭特別合唱団編成45名	目標値	公募合唱参加者250人
				実績値	45名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>富士河口湖町は、将来ビジョンとして観光産業に文化芸術を取り入れた町づくりをスローガンに、五感文化構想（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚）を立ち上げ、ホール、美術館、ハーブ館など文化観光の拠点施設を設置し各施設が町の生産性を高めるけん引役を担い、施策によって町の人口規模も飛躍的に伸びていった町である。その中核となる聴覚分野を担う河口湖ステラシアターは、3000名収容の野外音楽堂で、平成7年の開館当時は完全な野外音楽堂であったものの、平成19年に可動屋根を設置し、全天候型野外音楽堂として現在に至る。町直営であることを踏まえ当初から運営に住民の参画を促し、一緒に活動を共にする中で、地域文化ボランティアを中核とした富士山河口湖音楽祭を平成14年に佐渡裕さん監修によりスタートした。令和3年で音楽祭は20回目を迎え、住民参加型創造音楽祭という形式の中で培ってきた実行委員であり、ホール開設当初からの文化ボランティアも企画立案の重要なポジションもできており、まさに住民と一緒にホール運営になっている。当初からのボランティアも90才近くになるが、今でも現役であり副実行委員長も担い、その活動の後ろ姿が、60代、70代の活動における精神的な支柱となっており、やりがいから生きがいになっている。併せて小学高学年と中学生のジュニアボランティアも大人の取り組みを見て一緒に活動をしている。国内各地で高齢化が更に進んでいる中で公共ホールの役割は、益々重要な位置付けになっており、むしろ一緒に活動していく仕組みを強化するべきかと思われる。</p> <p>令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ホールの事業が一部中止ないし延期となった。富士山河口湖音楽祭の予定していた事業も大幅に見直しせざるを得ない状況の中で、人材養成事業を実施してきた。当町は観光地でありイベントに対する経済活性化事業の理解度は非常に高い地域ではあるが、ほかの地域での夏の事業はほとんど中止になり、その中で、富士山河口湖音楽祭事業は一部が中止及び延期プログラムもあったが、感染症対策をしながら、中学生を対象とした山梨県吹奏楽特別バンドの編成、OBメンバーによる吹奏楽団の編成は、一部内容を変えて実施できた。新型コロナウイルス感染症の影響で社会の動きが止まっている世情の中で、教育的な効果及び社会を元気づける効果を上げることができたと思われる。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードするまちづくりに貢献する視点を持ちながら、拠点となるホール（河口湖ステラシアター）が、観光地におけるホールの在り方を実践する場所となり、周辺観光施設、飲食店、ショッピングセンター等各施設に対し、集客に伴う経済的な恩恵を与える施設となっている。併せて、外部からの流入人口を増やすことから広域的な地域の生産性を高め、新たな音楽団体の受け皿となり目的（音楽）を持った滞在の仕組みができる施設であり、町全体の魅力づくりに貢献する一助を担っている。一方で、ホールの中核事業として、良質なクラシック音楽祭があることは、地域の文化芸術性を高める機会を醸成する場となっている。また、ホールの運営側に住民も参加できる仕組みも構築し、住民参加型創造音楽祭の形態が、文化芸術を通じた総合的なまちづくり事業の一助にも繋がっている。</p> <p>令和3年度には、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響があり、周辺エリアのイベントがほとんど中止ないし延期になっている状況ではあったものの、富士山河口湖音楽祭では、感染症対策を実施しながら、規模を縮小して各プログラムを開催した。感染症の影響で1年以上活動の制限がある中で、プログラムを実施できたことにより、新たにホールや音楽祭を知ってもらう良い機会になったことが、アフターコロナに向けて必ずやつながる活動になったことと思われる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

ホールの活動理念を具体的にするためのホール中核事業として2002年から20回目の開催となる住民参加型創造音楽祭「富士山河口湖音楽祭」をベースに、ホールの役割として、将来的な人材育成のためのプログラムを実施する。音楽家によるアカデミープログラム、合唱と吹奏楽の特別編成プロジェクト、また地元運営文化ボランティアと音楽大学アートマネジメントコースで学ぶ学生との文化ボランティア活性化事業を開催する。人材育成のプログラムは、将来のホール運営事業を支える重要なテーマとなる。ホールのプログラムに関わってもらいながら、ホールと人との結びつき、及びホールを支える人を育てている。

音楽祭は8月14日(土)から開始したが、開催直前に感染拡大による山梨県からの行政指導により、一部プログラムが中止ないし延期となったが、規模を縮小して実施した。住民の参加枠として、プログラムの運営ボランティアにて関わりを持たせながら、100名以上の参加目標を立てたものの、プログラムの縮小により62人の参加となった。

子ども達の音楽プロジェクトに関わる支援体制は、地域の芸術文化振興を図る上で、将来を担う子供たちの育成は重要になっており、その中で感染症の影響で制約がある中で、顧問の先生方4人の参加があり、中学生バンド編成ができた。プログラムを支える吹奏楽部顧問や吹奏楽OBの存在はとても大きく、こうした下支えする協力体制が、将来を担う子供たちを大切にできる良い機会となった。

音楽プログラムが高齢者の新たな生きがいにする支援体制の強化として、合唱プログラムを開催している。感染症対策を実施しながら、規模を縮小して実施し、65歳以上18人の方が集まった。

また、音楽大学等アートマネジメントコースで学ぶ若者と、地元運営文化ボランティアの交流から生まれる支援体制も強化している。ホールを支える地元運営文化ボランティアの方々には、地域住民とのコミュニケーションのつなぎの役割を担っている。住民の理解度を深めるためボランティアコーディネーターは重要な役割になっている。支援体制の強化を将来的に行うためにも、若年層ボランティアの育成は急務であり、今後益々人口が減少していく中で、地域の担い手になる仕組みを構築することはホールとしての役目でもある。新型コロナウイルス感染症の中で、人々の活動が制限されている中ではあったが、令和3年度は2人の参加があり、住民文化ボランティアの皆さんとも良き交流の場となり、今後のホールに関わる人材の育成にもつながったと思われる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、2021年7月からプレ演奏会を計画し、8月14日（土）から28日（土）に終了する予定で事業計画を立案した。開催直前に山梨県からの感染症拡大防止臨時協力要請が発出され、事業の一部が中止及び延期措置を取らざるを得なくなった。

富士山河口湖音楽祭の事業内容も大幅に見直さざるを得ない状況であったが、町、住民ボランティアの理解と協力により、8月14日（土）～8月21日（土）の期間へと縮小し、また、延期公演を9月30日（木）に事業を実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、2021年7月からプレ演奏会を計画し、8月14日（土）から28日（土）に終了する予定で事業計画を立案した。開催直前に山梨県からの感染症拡大防止臨時協力要請が発出され、事業の一部が中止及び延期措置を取らざるを得なくなった。

感染症の影響により開催直前まで、行政指導等の影響によりプログラムの中止及び延期もあり、事業費が大幅に変動しながら事業を実施せざるを得ない状況となったが、感染症拡大の影響により周辺地域で行われる様々なイベントが中止する中で、一部でもプログラムが実施できたことは、地域において社会的な意味を持つ位置づけにもなった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、周辺エリアのイベントがほとんど中止になっている中で、感染症対策をしながら、河口湖ステラシアター、河口湖円形ホール2か所だけのホール限定会場にて富士山河口湖音楽祭の事業を実施した。河口湖ステラシアターは全天候型可動式屋根を持つ野外音楽堂になっており3密にもならないことから、例年はホール内での対面によるコンサート形態で行っていたが、感染症対策を実施しながら、規模を縮小してプログラムを実施した。8月14日～21日までの富士山河口湖音楽祭期間中、山梨県内中学生を公募して編成する音楽祭山梨県中学生バンドプロジェクト、また合唱団プロジェクト、演奏会の公開リハーサル開催などの教育プログラムを実施した。当初は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、事業を中止することも検討をしたが、感染症対策をしながら事業を実施する中で、中学生バンド、OBバンド、合唱団の編成など、参加者や参加者のご父兄などの理解がなければ事業の実施はできなかつたであろう各事業が実施できただけでもとても意義深い状況だった。

8月15日(日)に行ったサクソフォン奏者上野耕平が贈るバンドクリニック&演奏会では、感染症対策を行いながら、総勢39名の山梨県下の中学生吹奏楽メンバーとサポートメンバー20名が集まった。例年100名前後の参加がある中ではあるが、新型コロナ感染症の影響で参加できない環境に置かれている子供たちも多い中で、多くの理解に支えられ39名の参加があったことは、実行委員をはじめ関わるボランティアの皆さんや関係者のモチベーションに大きく寄与した出来事となった。この39名のメンバーにプラスして、これまで中学生特別バンドに参加した経験のある吹奏楽メンバーからも公募し、予想以上に賛同を得て90名の参加があった。この2つのグループを混ぜ合わせてバンドを編成し、サクソフォン奏者上野耕平さんの指導により、公開バンドクリニック&演奏会を行いました。課題曲であるA.リード作曲:小組曲や和泉宏隆作曲:宝島を取り上げ、上野さんの指導により音がどんどん変わっていく様子がわかり、各メンバーも刺激ある演奏の機会となったことと思われる。

一方で、富士山河口湖音楽祭の教育プログラムのもう一つの柱である合唱プロジェクトは、全年齢から集まった総勢45名の合唱メンバーにより、8月15日(日)のぱんだウインドオーケストラ演奏にて合唱を披露することとなった。当初は8月28日(土)佐渡裕さん指揮による第九演奏会のために特別編成をする予定であったが、全国的な感染症拡大によって中止を余儀なくされ、発表の形式を変えて特別合唱団を編成してプログラムを実施した。多くの方にその響きが広く伝わったと思われ、令和3年度の事業が能動的に受け止められ、アフターコロナの下地になろうかと思われる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

富士山河口湖音楽祭は平成14年から開始し、音楽祭の柱として、山梨県下の中学生吹奏楽部から公募した音楽祭中学生特別バンドの動きがある。大きな目的の一つには将来人口の維持の視点を持っている。平成12年に89万人の人口をピークに、山梨県は現在約81万人の人口となる。20年後には人口が約66万人にまで減少幅が大きくなる推計が出ており、その中で、地域に少しでも愛着を持ち、地域に戻り生活の拠点を山梨県内に持つ若者の定着度を深めるためには、幼少のころから楽しい思い出をたくさん作り、山梨で将来生活をしようと思う心の基盤を作る思いも持ってこのバンドプロジェクトを開催している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、一時は中止を検討せざるを得ない状況ではあったが、感染症対策を実施し、プログラムを実施する。人材養成事業として、アカデミープログラムや、アートマネジメントコース学生と地域文化ボランティアによる交流事業など、感染症の影響による活動制限が高くある中で、実行委員をはじめ、町など関係機関の協力と理解をいただき、実現できたことが非常に意義を感じる機会となった。周辺のイベントは引き続き中止されていただけに、地域の中でもイベントが開始できたことが、その後の活動開始の推進役になったことが大きい。こうした状況の中で、山梨県下の中学生や合唱メンバーが集まったことは非常に意義があり、抑圧された環境下であったことから、実施できたことにより、参加した方の感動感は大きく、また支えた側も今後につながる結束感も更に強くなりました。また、サクソフォン奏者上野耕平さんや、ぱんだウインドオーケストラメンバーの皆さんもコンサートが中止が多い中で、久々の本番の機会となり、その分、各アカデミープログラムが開催できる意義を発信していたことが大きい。音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思う。こうした動きが令和4年度の富士山河口湖音楽祭へつなげていく希望をもっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

河口湖ステラシアターは平成7年5月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけでなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営している。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけている。平成10年5月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っている。

富士山河口湖音楽祭を実施する中で、行政、吹奏楽連盟や合唱連盟といった各種団体、地元オーケストラ団体メンバーや学校吹奏楽部顧問、そして、ホール運営文化ボランティア組織サポーターズクラブと、実質的に取りまとめる役割のホールが一緒になりながら、河口湖ステラシアターをメイン会場として音楽祭を開催している。サポーターズクラブの登録者は例年約60名が登録をしており、その中の3名が運営だけではなく企画立案も行う音楽祭実行委員会に所属している。音楽祭期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、参加するプログラムが限られていたが、こうした状況下だからこそ、参加された運営ボランティアの気持ちは更に強固なものになっている。平成22年度から昭和音楽大学と連携して事業を取り組む活動を行い、令和3年度で12年目になる。これまで28名の学生が文化ボランティアメンバーとして参加し、地元文化ボランティアと一緒に活動する中で、運営業務などを行い、ボランティア交流を行った。令和3年度は2名が参加し、8月11日（水）から23日（月）までの13日間滞在した。感染症の影響で各地の受け入れ先が無いことが多い中で、音楽祭の人材養成事業を中心としたプログラムが受け入れ先となり、結果学生と地域文化ボランティアの相互の関りを踏まえて、音楽祭の主要なプログラムを実施することができた。富士山河口湖音楽祭では、年配の方が多い運営ボランティア組織ステラシアターサポーターズクラブメンバーや、小中学生による地元ジュニアボランティア、アートマネジメント専門大学からの学生文化ボランティアの関わりなどいろいろな所属から成るボランティアの仕組みの中で、プログラムを開催し、運営していることから、富士山河口湖音楽祭の開催を通じた河口湖ステラシアターが複合的な文化交流拠点になっている。関わりの度合いが深く相互にコミュニケーションを図らないと運営に支障を来す原因にもなることから、ホールに対して深く思いを持つ機会にもなっている。こうした地域住民が支えるホールとして、持続可能で地域に支えられるホールを目指して、各種事業を実施している。